

プラハ・尺八サマースクール 2007

エイドリアン・ペイン

(翻訳:森 麻里子)

チェコ共和国に着いて、まだ 20 分くらいしか経っていないのに、気分がとても悪くなった。乗ったタクシーの運転手は、テレビゲームのカーチェイスでもしているように、ものすごいスピードで車線変更を繰り返す。(かろうじて)他の車をかわしながら、有名な建物や記念碑などを指差す「ほれほれ、あれ、見て。」はい、はい、見ますよ、でも、あなたは前を見ててください、という感じだった。

ホテルに到着し、ふらふら状態でタクシーを降りた。キース・コート(オランダ)、アナリス・ネダブラグト(オランダ)、フィリップ・ホラン(アイルランド)を待つ。この3人には、先月、フランスで行われた2007・ESSサマースクールで既に会っている。

他の参加者たちは、まだ来ないので、(果敢にも!)一人でまたタクシーに乗って、2007年プラハ・尺八サマースクールの初顔あわせに行くことにした。参加者は、中心街にある和食レストラン“雅(みやび)”に集まることになっていた。着くと、二人が近寄ってきた。参加者だな、と思った(なぜだかわからないけれど、なんだかわかる)。やはり、尺八奏者だった。これが、サマースクール主催者で講師のブラステスラブ・マトウセック(チェコ)との出会いだった。

レストランでは、ゆったりした気分で、ベジタリアン料理を味わいながら、到着する参加者と自己紹介しあった。ESSサマースクールで会った、マレク・マティガ(チェコ)とまた会えたのも嬉しかった。フランスのスクールにも参加して、今回も一緒になったのはこれで5人目だ。そのほかにも6名が加わったが、そのうち2人はまったくの初心者だった。

今回は、クリストファー・遥盟・ブラズデルにお会いできて光栄だった。彼の著書『シングル・トーン』を拝読して、尺八がきっかけで世界中を旅することになったことや、尺八のすばらしさを多くの国に紹介したことに感嘆した。そのご本人にお会いできるとは思ってもみなかった。クリストファーは、会ったときから、落ち着いた、思いやりのある人物だった。



クリストファー・遥盟・ブラズデル
写真: エイドリアン・ペイン

夕方には、サマースクールのスケジュールが説明された。第一段階: 6時半起床、ヨガ。

翌朝、私が起きたのは8時だった……

その日、ヨガに参加できなかったのは、私だけだったようだ。ヨガのクラスは、ホテルから2軒目にあるヨガ・スクールで、エイジェイ・ボベイドが教えてくれた。ここは、尺八サマースクールの会場にもなっている。



レッスン風景
ペイン

写真: エイドリアン・ペイン

レッスンは朝9時に始まった。会場はヨガ・スクールなので、都合の良いことにマットや座布(クッション)がたくさんあって、マットを敷いて床に座った人が多かった。リラックスした雰囲気だった。

毎日、口(ろ)吹きで始まる。口～～。

サマースクールを通して、各先生が1曲づつ教えてくれ、練習した曲は、最終日の生徒によるコンサートで演奏される。

クリストファーは「一ニ三 鉢返調」を、ブラステスラブ・マトウセックは「虚鈴」、キース・コートは「手向(たむけ)」を選んだ。

今回のサマースクールでは、各先生と短時間の個人レッスンを受けられたので、生徒はそれぞれの問題点について個人的に話し合ったりすることができた。同じような問題がある場合には、他の人の個人レッスンにも気軽に参加できた。このやり方はとても良い案なので、これからのサマースクールでも採用すべきである。



クリストファーとキース

写真：エイドリ

まったくの初心者のジャン・ソーフ(チェコ)とヴィテック・ジンドゥル(チェコ)は、光栄にも、かのクリストファー・遥盟・ブラズデルのレッスンを初めて受けた。クリストファー先生から、初めての尺八レッスンを受けられるとは、なんと幸先の良いことか！

昼食は、なるべく皆で一緒にいろんなところに行くようにした。昼食は時間をかけて楽しんだが、昼食後に目を覚ましているのがつらかった。午後いちのセッションが講義だったりすると最悪だった。明かりを暗くして、マットの上に座り、講義を聴いたり、見たりしていると、こっくりこっくりやっている人が時々いた。講師や講義内容が退屈というわけではない。フィリップ・ホランとデビッド・ビドロ(チェコ)の音響についての話は

おもしろかった。ブラスティスラブの「虚鈴」の歴史とバージョンについての話はかなり掘り下げた内容だった。どの話も啓蒙的で、講師たちも夢中でこうしたことを勉強したにちがいない。

講義の後は、レッスンとなった。レッスンは、常に、生徒が自由に質問できるリラックスしたオープンな雰囲気だった。ある曲を練習中でも、関連したことの説明があったり、頭を休めるために話題を変えたりで、その曲からはそれになってしまうこともしょっちゅうだった。姿勢、安定した座り方、指使い、音程、呼吸法などについて話し合った。ベートーベンの「歓喜の歌」からインドの「ラガ」まで、他のジャンルの曲もたくさん演奏した。キースは、吹けるものなら何でも楽器にしまい、すばらしい音を奏でた。ブラスティスラブは、カリグラフィーで書かれた美しい楽譜を見せてくれた。

ティータイム(私たち英国人はティータイムと呼んでいるけど、他の国では何と呼んでいるのかな?)には、夕方のコンサートに備えて、気分転換の休憩をとった。チェコ人以外のメンバーは、この時間を利用して、美しいプラハ市内を歩き回って観光し、コンサートを前に腹ごしらえしたりした。

最初のコンサートは、音響効果のとても良い、美しい教会で行われた。先生方が、生徒と一般向けに演奏した。今回は、日本大使館の方も来てくださり、演奏者に花束を贈呈した。聴衆の中で、いたく感動して、サマースクールに参加したいと言い出した人がいた。その人、ガブリエラ・クンストーバ(チェコ)は、やるき満々で早朝6時半のヨガにも参加した。



おしゃべり

写真：エイドリ

ーが、私は、またしても行かれなかった…

2度目のコンサートは、文学カフェの地下で行われた。今回は、詩の朗読と尺八という組み合わせだった。詩人ペトラ・バーコベッチ(チェコ)には、ブラスティスラブとマレクとの伴奏がついた。詩はチェコ語だったが、言葉がわからなくても、彼の口調や声のリズムが尺八の音色と溶け合って、感動的な雰囲気になった。ペトラの詩に続いて、今度は、ジェームズ・ラガン(アメリカ)の詩に、クリストファーの尺八伴奏がついた。ジェームズはチェコ系アメリカ人で、チェコのバックグラウンドが彼の詩にも反映されている。皆、ジェームズの詩には感動した。特に、父のチェコ帰国とそれが歓迎されなかったことへのくだりは感情的だった。詩に影響されるとは思わなかったが、本当に感動した。デリカシーと繊細さを持ったクリストファーの演奏に、明らかに感極まったジェームズは、途中で朗読につまるほどだった。

3回目のコンサートもカフェの地下でおこなわれた。テーマはコンテンポラリー音楽で、クリストファーとキースが多いに貢献した。が、その夜は、ブラスティスラブと才能のある3人娘に場を取られた感じとなってしまった。彼らの音楽をどう説明してよいのかわからな



ブラスティスラブとマレク

写真：エイドリ

ン・ペイン

いが、空いた口がふさがらない状態、(私にしてはめずらしく)言葉を失った状態とも言ったら十分だろうか。とにかく素晴らしかった！



ほとんどのメンバーが帰った後も、つわものたち(誰だかわかるでしょう!)だけが残って、ビールをもう1杯(実は3杯)やった。ジャクブ・ミセク(チェコ)がピアノを弾き始め、キースはアドリブでジャズ・ブルースを歌い始めた。数人がキースに注目しはじめた。私も、口でトランペットをまねて加わり、皆、そのリズムにのって体を揺すり、笑い合っていて楽しんでいた——店員の一人がえらい勢いで階段を下りてきて、「だめです!」「絶対だめです!」「今すぐ、やめてください!」とキーキー声で叫ぶまでは。いやー、その女性、ほんとに怖かった。即刻、私たちは静かになった。

プラハのビールと食べ物はおいしい。だから、ビールをたくさん飲んでしまった。ようやく、皆、家に帰った。まだ、ナイトライフを満喫

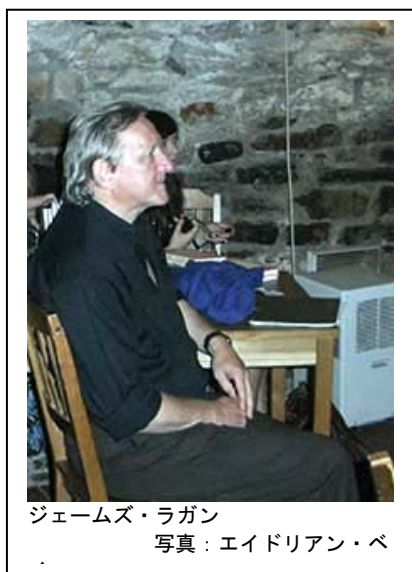
しきっていないキースだけを残して。

次の日の朝、ついにヨガに参加できた。ちょっと遅れたけど、ちゃんとやってきた。びっくりしたのは、キースが私より先に来ていたことだ。午前4時までは戻ってこなかったはずなのに、先を越されてしまった!



だが、キースは、ヨガのレッスン中に居眠りし始め、いびきまでかき始めた!

4度目のコンサートは、また教会で行われた。生徒たちは、サマースクールの4日間で習った曲を演奏した。フィリップ・ホランは、陽気なアイルランド音楽を演奏し、いつものように喝采をあびた。アナリースは、尺八を習い始めたてのころのフラストレーションを寸劇にし



て、私たちを驚かせた。

皆、バーで最後の美酒に酔いしれ、さようならを言い合った。

キースとアナリースは、わざわざ朝6時に起きて、私を空港まで車で送ってくれた。なんだか哀しい別れだった。短い間だったが、彼らとは本当に仲良くなった。

また、プラハに来ようと思う。美しい町だ。また、新しい友人ができるだろう。チェコ人は、印象的で教養もあり親切だ。

プラハ・サマースクールは大成功だった。マレク、このイベントを企画し、いろいろ手配してくれてありがとう。辛抱強く、すばらしい知識を与えてくれたクリストファーにも感謝している。。いつも、いちずなエネルギーにあふれ、いろいろ教えてくれたキース、娘さんたちも素晴らしかった。そして、私たちを歓迎してくれた、ブラスティスラブとチェコ人メンバーたちにもお礼を言いたい。一生忘れないよ。

尺八万歳!
エイドリアン・ベイン



Footnotes

There are many photos and small video clips of the Prague summer school. As I opted for quantity over quality, the video clips are not high quality visually, but the sound is good. They capture some of the lessons (useful for study) and excerpts from the concerts. There are over 2GB of files so far, so distribution is an issue.

The new E.S.S. website is under development. It may be that we can put the summer school photos and video files on the site so that people can pick and choose what they want.

Until the new site is ready, the E.S.S. site continues to show the 2007 Summer School information. However, please check the Events section of the site as new events are being published there.